

次世代ブロードバンド技術の利用環境整備に関する研究会

第4回会合 議事要旨

1 日 時 平成19年3月23日(金)午前10時～午後12時15分

2 場 所 総務省 9階 第三特別会議室

3 出席者

(1) 構成員(五十音順、敬称略)

井堀 幹夫、牛窪 孝、小川 博世(代理:豊田 雅宏)、黒川 敏、
小池 隆司(代理:若森 和彦)、笹生 剛良、坪川 信、中川 正雄(座長代理)、橋本 明、
羽鳥 光俊(座長)、濱井 龍明、藤原 隆平、松村 友邦、松本 充司、
村尾 憲治(代理:馬淵 孝之)、八嶋 弘幸、山戸 康弘、弓削 哲也

(2) 総務省

森総合通信基盤局長、桜井電気通信事業部長、杉浦電波環境課長、
江村高度通信網振興課長、片桐高度通信網推進官、臼田課長補佐、

(3) オブザーバー(敬称略)

安藤 清武、渋谷 恵(JSAT株)、永野 寛(株三菱総合研究所)

4 議事概要

(1) 次世代ブロードバンド技術の課題とその解決策について

・資料4-1について井堀構成員、資料4-2について弓削構成員、資料4-3についてJSATの安藤オブザーバーより発表が行われ、主に以下について質疑応答がなされた。

・資料4-1の「携帯端末の活用事例」の登録についての質問に対し、事前登録により、様々なサービスが利用可能となる旨の説明がなされた。また、「無線システムの利用拡大(シンクライアント活用)」についての質問に対し、現行の無線システムではシンクライアントでの利用ができない状況にあり、今後どこでも利用できるようなれればと考えている旨の説明がなされた。

・資料4-2の「FTTNの場合のOAB-Jの番号利用」についての質問に対し、弊社のものは回線が不安定になるのではないかと指摘を受けているため、今後安定性を証明して、OAB-Jの番号が使用できるようにしていきたい旨の説明がなされた。

・資料4-3の「衛星通信でのマルチキャスト」についての質問に対し、マルチキャストも可能だが、実際にユーザがどのように使用しているかまでは把握していない旨の説明がなされた。また、「通信と放送の融合」についての質問に対し、ほとんどの中継器が放送の信号で埋まっておりIPを流す余裕はないが、実際は放送の信号がほとんど占めているので、同じ衛星、同じアンテナということとはできない旨の説明がなされた。さらにシステムに関する質問に対し、ユーザの登録数の制限はなく、ベストエフォートなので単純割りで数 kbps になる旨の説明がなされた。

(2) ブロードバンド技術の国際標準化動向について

・資料4-4について橋本構成員、資料4-5について三菱総合研究所の永野オブザーバーより発表が行われ、特段質疑応答はなかった。

(3) 研究会報告骨子(案)について

- ・資料4-6について、事務局より説明がなされ、以下のような意見があった。
- ・通信技術や機器を利用するユーザ側の立場での問題も3つの課題の中に配慮願いたい。
- ・標準化に関しては、総務省を中心に国内も主体的に係わっているので、第2章のタイトルを工夫して頂きたい。

以上

[配布資料]

- 資料4-1 市川市のブロードバンドの状況
- 資料4-2 DSLの技術動向
- 資料4-3 SPACEIPサービスシステム概要
- 資料4-4 ブロードバンド技術の標準化動向
- 資料4-5 諸外国におけるブロードバンド技術の動向
- 資料4-6 次世代ブロードバンド技術の利用環境整備に関する研究会報告骨子(案)